

報道関係各位

2021年4月6日

INAXライブミュージアム企画展
DISCONNECT/CONNECT【ASAO TOKOLO×NOIZ】
幾何学紋様の律動、タイリングの宇宙

Rhythms of Geometric Patterning: A Cosmos of Tiling

【会期】2021年4月24日(土)～10月12日(火)

【会場】INAXライブミュージアム「土・どろんこ館」企画展示室



株式会社 LIXIL が運営する、土とやきものの魅力を伝える文化施設「INAX ライブミュージアム」(所在地：愛知県常滑市)では、2021年4月24日(土)から10月12日(火)まで、展覧会「DISCONNECT/CONNECT【ASAO TOKOLO×NOIZ】幾何学紋様の律動、タイリングの宇宙」を開催します。



(図版1)
RHOMBUS WORKS
[JAGGED] 部分
 野老朝雄、2020、タイル、
 1辺100mm、撮影：梶原敏英

昨夏コロナ禍において、実展示からオンラインでの展覧会に転じた LIXIL ギャラリー*の「CONNECT/ DISCONNECT【ASAO TOKOLO×NOIZ】」。このたび、美術家の野老朝雄と建築デザイン事務所〈noiz〉が再びタッグを組み、当館の土で囲まれた実空間で展覧会を実現させます。紋様の創作をとおして多種多様な関係性を築こうとする野老のテーマ「つなげる」から名づけられたオンライン展のタイトルは、コロナ禍で一旦途切れたものの、再びつなげるとし、今展では語順を逆転させています。

野老の作品といえば、東京2020オリンピック・パラリンピックのエンブレムのデザインが広く知られています。彼は、シンプルな図形で平面を隙間なく埋め尽くす「タイリング」の世界で、幾何学による無限の連続性やさまざまな展開性を特徴とする野老紋様を数多く生み出してきました。

本展では、この野老紋様が建築素材である「タイル」と結びつけられます。デザインの可能性を飛躍的に高める「コンピューショナル・デザイン」の分野で建築界をリードする noiz とともに、両者が野老紋様のタイルを纏った造形をつくりあげます。noiz が手掛ける展示空間では、野老紋様独特のパターンやルールを活かしたタイルが多彩に展開されます。プログラミングにより生成した映像や音も織り込まれたダイナミックな環境で、まるで生きているかのように振舞う紋様とタイリングの妙、常滑の当館でしか体験できない美をお楽しみください。

*2020年9月閉廊

<参考資料>

開催概要

企画展

DISCONNECT/CONNECT【ASAO TOKOLO×NOIZ】

幾何学紋様の律動、タイルの宇宙 Rhythms of Geometric Patterning: A Cosmos of Tiling

【会期】2021年4月24日（土）～10月12日（火）

【会場】INAX ライブミュージアム「土・どろんこ館」企画展示室

〒479-8586 愛知県常滑市奥栄町 1-130 TEL：0569-34-8282 FAX：0569-34-8283

【休館日】水曜日（祝日の場合は開館）

【観覧料】共通入館料にて観覧可（一般：700円、高・大学生：500円、小・中学生：250円）

【主催】INAX ライブミュージアム

【監修】野老朝雄、noiz

【紋様制作】野老朝雄、【展示デザイン】noiz、【ヴィジュアルプログラミング】白木 良、【音楽】原摩利彦

【グラフィック】小木央理、【タイル制作】LIXIL ものづくり工房、【協力】ニチレイマグネット株式会社

*感染症拡大防止のため会期、関連イベントの内容等を変更する場合があります。当館ホームページから最新情報をご確認ください。

■展示構成

今展は、2つのゾーンで構成されています。

会場入り口側のゾーン1では、鑄込み成形によるタイルの作品<RHOMBUS WORKS【JAGGED】>（図版2）が中心に置かれ、その周囲に野老紋様の転写タイルが張られたスタンド式パネルが10台並びます。奥側のゾーン2では、1辺400mmのキューブが8段積み上げられたピラミッド状の構造物が2つ向き合う形で配置されます。一方のピラミッドには1種類の野老紋様の転写タイル、もう一方には真っ白のタイルが張られます。白いピラミッドには野老紋様の映像が投射され、さらに音楽も加わります。総計15点による作品構成です。今回のタイルはすべてLIXIL ものづくり工房が制作しています。

■見どころ① 瑠璃色のタイルで構成された<RHOMBUS WORKS【JAGGED】>

鑄込み成形による、60個の菱形タイルピースで構成される作品。これらのピースはシンメトリックにも、ランダムにも組み替えができ、そのパターンは膨大な数にのびります。さまざまな菱形系の野老紋様を生み出す基本形です。回転台に載せられるため、照明によって凹凸のあるタイルが刻々と表情を変えるところも見どころです。右写真の作品は、（図版1）のタイルピースを12角形に並び替えたものです（この形で展示予定）。

（図版2）
RHOMBUS WORKS【JAGGED】
野老朝雄、2020、タイル、
φ770mm
撮影：梶原敏英
*図版1と同じ。12角形に組み替えたもの。



■見どころ② さまざまな組み合わせやサイズで展開される野老紋様「INTERTWINED」

10台のスタンド式タイルパネルでは、「INTERTWINED」が転写された50mm四方、100mm四方、200mm四方のタイルを用いて、パネルごとにさまざまな組み合わせが施されます。野老紋様に潜む幾何学のルールや紋様の連続、切断などを読み取ることができる実にユニークな作品です。（この野老紋様のタイルは、会期中、別の紋様のタイルに入れ替える場合があります）

（図版3）
INTERTWINED
野老朝雄、2020、
タイル
撮影：梶原敏英



■見どころ③ リアルとデジタル(プロジェクションマッピング)の領域が対話する2つのタイル・ピラミッドタワー「STEPS」

野老紋様「INTERTWINED」(図版3)を転写した200mm四方のタイルがびっしりと張りめぐらされたピラミッド。階段状の凹凸があるため、角度によって紋様の見え方が異なり不思議な感覚を覚えることでしょう。それに向き合うように配置された白いピラミッドには、多様な野老紋様が映像で軽やかに展開するプロジェクションマッピングが投影されます。固定された実の像とデジタル像を音楽とともに楽しんでいただける、まさに体感型の作品です。



(図版4/上) オンライン展「CONNECT/DISCONNECT
【ASAO TOKOLO×NOIZ】」の映像より
パターンデザイン：野老朝雄、監修：noiz、
ヴィジュアルプログラミング：白木良、2020

(図版5/下) STEPS
パターンデザイン：野老朝雄、
造形デザイン：野老朝雄、noiz
本展会場イメージより、提供：noiz



■プロフィール

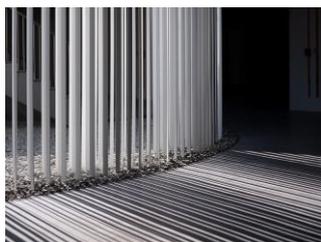
野老朝雄 Asao TOKOLO



1969年、東京都生まれ。幼少時より建築を学び、大学卒業後、建築家/美術家の江頭慎に師事。2001年9月11日より「つなげる」をテーマに紋様の制作を始め、美術・建築・デザインなど、分野の境界を跨ぐ活動を続ける。単純な幾何学原理に基づいて定規やコンパスで再現可能な紋と紋様の制作をするほか、同様の原理を応用した立体物の設計/制作も行なっている。主な作品に、東京2020オリンピック・パラリンピックのエンブレムに採用された〈組市松紋〉、大手町パークビルディングのための屋外彫刻作品《TOWER OF CONNECT》、《PPP TOKOLO PATTERN MAGNET》などがある。

NOIZ

2007年に豊田啓介と蔡佳萱のパートナーシップとして設立。2016年より酒井康介を加えた3名パートナー体制で、東京、台北、ワルシャワ(ヨーロッパ)からコンピューテーショナルな手法を駆使し、建築を軸にインスタレーションから都市まで幅広いジャンルで国際的に活動する建築・デザイン事務所。最新のデジタル技術を駆使した各種デザインや製作、システムの実装から教育、各種リサーチ&コンサルティング活動も積極的に展開している。
<https://noizarchitects.com/>



空間デザイン作品例：
左) Shadow In Motion, 2019,
Tainan, Taiwan, Collaborator:
Kenya Hara, Photo: Kyle Yu

右) traNslationS Understanding
Misunderstanding, 2020,
Tokyo, Japan, Photo: Yasuhiro
Takagi

■オンライン・オープニングトーク

登壇者：野老朝雄(美術家)、豊田啓介(建築家、noiz)

開催日時：2021年4月24日(土) 17:00-18:30

※詳細、お申込み方法、およびその他のイベントについては当館ホームページをご覧ください。

《トークの内容》

今展は、野老朝雄氏とnoizのコラボに加え、タイルを素材に加えたことによるリアルとデジタルの調和を活かした展覧会です。完成にいたるメイキングの過程を振り返りながら、同展タイトルの「DISCONNECT/CONNECT」を背景に、野老氏と豊田氏に、それぞれの役割や魅力、今展のねらい、制作思考中の紆余曲折などを熱く語っていただく予定です。

■INAXライブミュージアム概要

『INAX ライブミュージアム』

所在地：愛知県常滑市奥栄町 1-130

TEL：0569-34-8282

休館日：水曜日（祝日の場合は開館）、年末年始

共通入館料：一般：700 円、高・大学生：500 円、小・中学生：250 円

ホームページ：<https://livingculture.lixil.com/ilm/>

LIXIL 文化活動 Facebook：<https://www.facebook.com/LIXIL.culture>

やきもの製品のテクノロジー拠点、愛知県常滑市に LIXIL が開設する文化施設。「窯のある広場・資料館」「世界のタイル博物館」「建築陶器のはじまり館」「土・どろんこ館」「陶楽工房」「ものづくり工房」の 6 館から成る“体験・体感型ミュージアム”。

土からやきものまで、その歴史や文化、美しさや楽しさを伝えています。土と陶の魅力に触れる体験教室や企画展、ワークショップも開催。



LIXILものづくり工房

日本六古窯のひとつ、千年のやきものの歴史を持つ「常滑」で、伝統に支えられたやきものづくりの技術に学び、ものづくりの技術と精神を継承し、やきもの技術のイノベーションと新たな可能性に挑戦しています。そのなかで、歴史的建造物の再生・復原への協力や、やきものづくりをとおして、芸術家、建築家など、さまざまな分野の人との交流も積極的に行っています。



RHOMBUS WORKS [JAGGED]

野老朝雄, 2020, タイル, 1辺100mm

撮影: 梶原敏英

Asao Tokolo, 2020, Tile, 1 side=100mm

Photo: Toshihide Kajihara

DISCONNECT / CONNECT

[ASAO TOKOLO × NOIZI] 幾何学紋様の律動、タイリングの宇宙

RHYTHMS OF GEOMETRIC PATTERNING: A COSMOS OF TILING

2021.04.24 [SAT] - 10.12 [TUE]



INAX ライブミュージアム

INAXライブミュージアムはLIXILが運営する文化施設です。

*感染症拡大防止のため、会期、関連イベントの内容等を変更する場合があります。
<https://livingculture.lixil.com/ilm/>



DISCONNECT/CONNECT

[ASAO TOKOLO×NOIZ] 幾何学紋様の律動、タイリングの宇宙
RHYTHMS OF GEOMETRIC PATTERNING: A COSMOS OF TILING
2021. 04.24 [SAT]-10.12 [TUE]

会場: INAXライブミュージアム「土・どろんこ館」企画展示室

- 開館時間: 10:00am ~ 5:00pm (入館は4:30pmまで)
- 休館日: 水曜日(祝日の場合は開館)
- 共通入館料: 一般: 700円、高・大学生: 500円、小・中学生: 250円 (税込、各種割引あり)
- 会期中、一部展示作品を入れ替える場合がございます。
- 感染症拡大防止対策について
- マスクの着用、検温にご協力ください。
- 当館での新型コロナウイルス感染症拡大防止策についてはホームページをご覧ください。

昨夏コロナ禍において、実展示からオンラインでの展覧会に転じたLIXILギャラリーの「CONNECT/ DISCONNECT [ASAO TOKOLO×NOIZ]」。このたび、美術家の野老朝雄と建築デザイン事務所 (noiz) が再びタグを組み、当館の土で囲まれた実空間で展覧会を実現させます。紋様の創作をとおして多種多様な関係性を築こうとする野老のテーマ「つなげる」から名づけられたオンライン展のタイトルは、コロナ禍で一旦切断されたものの、再びつなげるとし、今展では語順を逆転させています。

野老の作品といえば、東京2020オリンピック・パラリンピックのエンブレムのデザインが広く知られています。彼は、シンプルな図形で平面を隙間なく埋め尽くす「タイリング」の世界で、幾何学による無限の連続性やさまざまな展開性を特徴とする野老紋様を数多く生み出してきました。

本展では、この野老紋様が建築素材である「タイル」と結びつけられます。デザインの可能性を飛躍的に高める「コンピューショナル・デザイン」の分野で建築界をリードするnoizとともに、両者が野老紋様のタイルを纏った造形をつくりあげます。noizが手がける展示空間では、野老紋様独特のパターンやルールを活かしたタイルが多彩に展開されます。プログラミングにより生成した映像や音も織り込まれたダイナミックな環境で、まるで生きているかのように振舞う紋様とタイリングの妙、常滑の当館でしか体験できない美をお楽しみください。

*(2020年9月閉館)



野老朝雄 Asao TOKOLO

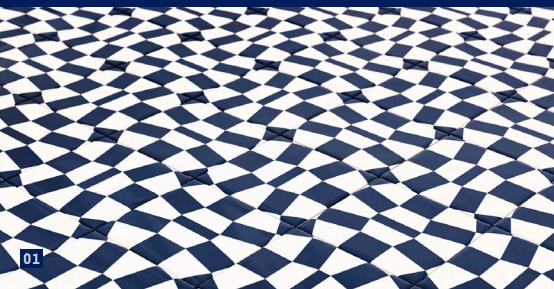
1969年、東京都生まれ。幼少時より建築を学び、大学卒業後、建築家/美術家の江頭慎に師事。2001年9月11日より「つなげる」をテーマに紋様の制作を始め、美術・建築・デザインなど、分野の境界を跨ぐ活動を続ける。単純な幾何学原理に基づいて定規やコンパスで再現可能な紋と紋様の制作をするほか、同様の原理を応用した立体物の設計/制作も行なっている。主な作品に、東京2020オリンピック・パラリンピックのエンブレムに採用された(組市松紋)、大手町パークビルディングのための屋外彫刻作品(TOWER OF CONNECT)、(PPP TOKOLO PATTERN MAGNET)などがある。



noiz

2007年に豊田啓介と蔡佳宣のパートナーシップとして設立。2016年より酒井康介を加えた3名パートナー体制で、東京、台北、ワルシャワ(ヨーロッパ)からコンピューショナルな手法を駆使し、建築を軸にインスタレーションから都市まで幅広いジャンルで国際的に活動する建築・デザイン事務所。最新のデジタル技術を駆使した各種デザインや製作、システムの実装から教育、各種リサーチ & コンサルティング活動も積極的に展開している。

https://noizarchitects.com/



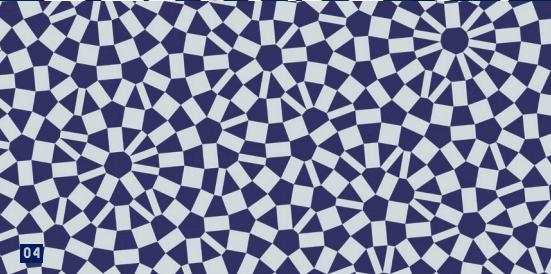
01



02



03



04

01 HARMONIZED CHEQUERED PATTERN

野老朝雄, 2020, タイル, 撮影: 梶原敏英
Asao Tokolo, 2020, Tile, Photo: Toshihide Kajihara
*会期中入れ替え、展示予定

03 STEPS (本展会場イメージより。提供: noiz)

パターンデザイン: 野老朝雄、造形デザイン: noiz
Exhibition space image, provided by noiz
Pattern Design: Asao Tokolo, Modeling Design: noiz

● オンライン・オープニングトーク

登壇者: 野老朝雄(美術家)、豊田啓介(建築家、noiz)

開催日時: 2021年4月24日(土) 17:00-18:30

*詳細、お申し込み方法、およびその他のイベントについては

当館ホームページをご覧ください。

https://livingculture.lixil.com/l/m/

Last summer, the "CONNECT/DISCONNECT | ASAO TOKOLO×noiz" exhibition at LIXIL Gallery (which closed permanently in September 2020) was converted to an online exhibition due to the coronavirus pandemic. Now, artist Asao Tokolo and the architectural design studio noiz have teamed up again for an exhibition at INAX Museums in a real space enclosed by clay walls. Like the online show, this one takes its title from Tokolo's theme of "connecting," which he expresses through the creation of kaleidoscopic patterns that represent all manner of relationships. This time, however, the exhibition title reverses the order of the words DISCONNECT and CONNECT to celebrate the revival of connections temporarily severed by the pandemic.

Asao Tokolo is widely known for his design of the emblems for the Tokyo 2020 Olympics and Paralympics. Using the tiling technique to cover flat surfaces with simple geometric forms that intertwine in a myriad variations and seem to stretch into infinity, he has created a universe of distinctive "Tokolo Patterns."

This exhibition features Tokolo Patterns made of actual tile, a common element of architecture. A leader in the use of computational design to dramatically expand design frontiers, noiz has collaborated with the artist to produce works covered with ceramic tiles based on Tokolo's original patterns and rules. The variegated tile surfaces fill an exhibit space designed by noiz. Amid a dynamic environment of program-generated imagery and sound, these patterns dance and pulse like living organisms. Don't miss a unique opportunity to experience the magic of tiling firsthand, only at INAX Museums in Tokoname.

02 INTERTWINED

野老朝雄, 2020, タイル, 撮影: 梶原敏英
Asao Tokolo, 2020, Tile, Photo: Toshihide Kajihara

04 CONNECT/DISCONNECT MOVIE

パターンデザイン: 野老朝雄, 監督: noiz,
監修: 野老朝雄, noiz
紋様制作: 野老朝雄
展示デザイン: noiz
ウィジュアルプログラミング: 白木 良
音楽: 原厚利彦
グラフィック: 小水史理
タイトル制作: LIXILもぐもり工房
協力: ニデレイマクネット株式会社

主催: INAXライブミュージアム
監修: 野老朝雄, noiz
紋様制作: 野老朝雄
展示デザイン: noiz
ウィジュアルプログラミング: 白木 良
音楽: 原厚利彦
グラフィック: 小水史理
タイトル制作: LIXILもぐもり工房
協力: ニデレイマクネット株式会社

INAXライブミュージアムへのアクセス

- バス
 - 名鉄線「常滑駅」または中部国際空港より
 - 知多バス「知多半田駅」行き
 - 「INAXライブミュージアム前」下車徒歩2分
- お車(乗用車・バス駐車場完備)
 - 名鉄線「常滑駅」より約6分
 - 中部国際空港より約10分(「りんくう」C)乗り約
 - セントレアライン(名古屋方面から)「常滑IC」より約7分
 - 知多半島道路「半田IC」より約15分



INAXライブミュージアム
〒479-8586 愛知県常滑市奥条町1-130
TEL:0569-34-8282 FAX:0569-34-8283

